

XV アドミッション・ポリシー

法政大学のアドミッション・ポリシー

本学では、先に掲げた教育目標、学位授与の方針に照らして、次のような意欲と能力を備えた学生を受け入れる。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有する者。
2. 自ら考え、判断し、表現する一定の能力をもち、その能力をさらに高めることに意欲をもつ者。
3. 主体性を持って多様な人々と協働しながら学び、議論することで、知を深めていこうとする能動的な姿勢をもつ者。
4. グローバルに視野を広げ、国際的な知識と表現力を獲得することに能動的である者。

入学を許可するにあたって、本学は複数の方法を設定している。

学士課程における入学の方法には入学試験による入学と、推薦による入学とがある。入学試験には、一般入試、特別入試がある。客観性と公平性を担保した上で学力を基準に選抜する、一般入試A方式およびT日程方式を基本とする。一般入試には、さまざまな地域から多様な人材を集める地域入試、センター試験利用入試、英語外部試験利用入試を用意しており、受験しやすい方法を選ぶことができる。

特別入試には、社会人入試、帰国生入試、外国人留学生入試のほかに、国際バカロレア利用自己推薦入試、英語外部試験自己推薦入試などがある。その他、各学部は独自の特別入試を実施している。

入試にはそのほかに編入学試験もある。社会人の編入学や学士入学、そして2、3年次への編入の試験を用意している。

学力とともに学生の個性や動機・意欲、能力・経験などで適性を測っていく推薦入学には、指定校推薦、スポーツ推薦などがある。全国および海外の高校・大学（編入および大学院の場合）から推薦を受けることで、優秀かつ適正な学生を多く迎え入れている。

本学は3つの付属校をもっており、それら付属校からの推薦入学も実施している。付属校からの進学者は、本学とアイデンティティを共有する学生集団を形成している。

なお本学は、書類選考のみで入学を認める通信教育部も併設している。（WEBサイト <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/>）

本学はこれらの多様な入学方法により「異なる能力」「異なる地域」「異なる動機・意欲」「異なる世代」など、価値観の異なる多様な学生を受け入れ、多様な出会いをする場となっている。このような場において、ポリシーに則ったカリキュラムを学び、本学の理念である「自由を生き抜く実践知」を身に付けることを求めている。

参考：本学の教育目標・大学の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）・大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は法政大学WEBサイト <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/rinen/hoshin/index.html> を参照のこと。

各学部のアドミッション・ポリシー

〈法学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

法学部では、日本最古の私立法律学校としての本学の伝統をふまえ、建学の精神たる「自由と進歩」の実現に向けて、リーガル・マインドや政治的分析・交渉能力のある人材を育成し、広く社会に貢献するため、法学・政治学の各分野で充実した教育内容を提供することを目的とします。

法律学科では、法曹、法律研究者、公務員および教員、民間企業などさまざまな分野で活躍できる学生の輩出を目指します。そのため、基礎法学・実定法学の各分野での理論的・実践的な法学教育を通じて、法学知識によって市民社会に貢献できる、リーガル・マインドをもつ学生の教育に努めることとします。

政治学科では、政治学の対象が、外交・政治・自治や、都市・高齢化社会・少子化・まちづくり、など身近な問題まで、あらゆる領域に涉っていることに鑑み、政治学科の学生に、知を愛し、歴史に学び、地域を大切に、世界的視野を持つことを求めていくこととします。

国際政治学科では、「夢は果てなく足は大地に」と「活躍の舞台はグローバル」をモットーに、21世紀のグローバル時代における地球規模問題群に対して、観察力・分析力のみならず、構想力・交渉力・実行力に加えて、英語力を磨くことにより、地球共生社会の実現をめざして積極的に行動する地球市民意識を育むとともに、獨創性・主体性・自立性を発揮できる人材の育成を目的とします。

【学部が求める人材】

以上のような教育方針から、法学部では、学力に加えて、社会のさまざまな問題への持続的な関心と、それを解決しようとする意欲をもった学生を受け入れます。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

入学するにあたり、法学・政治学の学習への強い意欲と、社会科学にかかわる高等学校レベルでの十分な知識を習得していることが求められます。政治・経済や、その背景ともなる日本史、世界史、地理に関心を持ち、またこれらを自然科学の知識とも結びつけて、様々な問題に幅広く理解を深めておくことが望まれます。なお、国際政治学科志願者については、一定水準以上の英語力を習得しており、引き続き英語を含む諸外国語能力を向上させる意欲を持っていることも必要です。

〈文学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

文学部が一貫して目指している教育は、目前にある成果や一握りの集団の利害のみを追い求めるのではなく、長い時間の単位で、確固とした尺度をもって判断できる力を身につけることです。そのような教育を通じて、「人間とは何か」という視点に立って、自己理解を深めるとともに、新たな自己の可能性を発見することのできる学生を育てていきます。

文学部には哲学科、日本文学科、英文学科、史学科、地理学科、心理学科があり、それぞれの学問を通じて、6つの知を創造しています。それぞれの知へのアプローチは異なりますが、公平で普遍的な視点から世界の文化・歴史を理解する一方で、地域・時代の独自性にも配慮し、その二つの視点をともに活かすことのできる柔軟な感受性と独創的な思考力を高め、人間や文化に対する興味や関心、課題、発見を世界に発信することのできる学生へと入学者の皆さんを導くことが、6学科の共通した願いです。

【学部が求める人材】

文学部では、互いに切磋琢磨することを通じて、一つの固定した見方にとらわれず、さまざまな視点から物事を学ぼうとする意欲と能力のある学生を求めています。そのためにも、多様な個性を持つ学生が集まるように多岐にわたる入試方法を採用しています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

文学部では、入学前に習得しておくべき知識の内容・水準は学科によって異なりますが、入学を希望する皆さんが幅広く偏りのない読書体験を有し、さまざまな分野に対して生き生きとした興味・関心を持っていることを求めています。

〈経済学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

経済学部は、時代の変化に応じて研究と教育の両面から多様な分野の学問と融合を図りながら、学生の問題解決能力、自主的なキャリア形成、心・技・体などの育成を教育方針としています。教育目標は「現代社会の経済現象や経済問題を体系的にとらえ、社会に対し有益な政策提言ができる人材の育成」としています。学科ごとの目標は、以下のとおりです。

経済学科：経済界において幅広く活躍し、現実の経済の動きを幅広い観点からの確に把握し、論理的な思考方法によって問題解決への道を模索できる人材の育成。

国際経済学科：地球市民としての自覚をもち、国際経済の担い手として国際業務を遂行する人材の育成。

現代ビジネス学科：マクロ経済の構造変化を踏まえ、企業経営に意欲をもち、企業分析などの専門知識を修得し企業経営にアドバイスができる人材の育成。

【学部が求める人材】

世の中の現状を経済という観点から考えることに関心をもち、それを学修や行動に移せる人、また、知的好奇心をもって、入学までに培った基礎学力をさらに広げ、深めていこうとする向上心のある人を歓迎します。具体的には、法律、歴史、科学、思想、文学、言語、などの幅広い分野にわたる教養を身につけ、それらを経済学の専門知識と結びつけて自分の世界を広げていこうとする人です（詳細はカリキュラム・ポリシー参照）。さらに留学、スポーツ、文化的活動、ボランティア活動、資格取得など、大学内外、国内外における学びのフィールドを有機的に結び付けて、自分の学びをデザインしていく行動力のある人を歓迎します。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

入学試験科目において深い知識を身につけてもらうことが前提ですが、文系・理系の教科を問わず、幅広くさまざまな科目を通して基礎学力の充実にご協力ください。経済学部は文系学部とくらわれがちですが、基本的な高校数学の知識もある程度必要となります。さらに、大学教育では、レポートや論文といった形で、調べた内容、自分の考え・経験などをまとめて論じる力が必要となります。新聞など様々なメディアを通じて、現在自分の身の回りで起きていることに関心を払い、現実の問題と大学での学びとを結びつけられるようにしてください。最近ではプレゼンテーションや討論など、自らが主体的に学ぶ機会が増えています。議論や発表という手段によるコミュニケーション力も、大学入学前にできる限り培っておくとよいでしょう。

〈社会学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

社会学部の教育方針は、学生が次のような力を身につけるカリキュラムを構築し、提供することです。

- (1) 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
- (2) データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
- (3) 問題解決の方法を構想することができる。
- (4) それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

社会学部の教育目標は、複雑な社会の構造とその中での人々の営みを観察・分析・理解する力を身につけた人材、社会をより良くする方法を考え、提言できる人材を育成することです。

【学部が求める人材】

社会学部では、社会現象に幅広い関心を持ち、学習・研究活動を通して社会に積極的に関わる意欲を持つ、次のような人材を歓迎します。

- (1) 入学後の修学に必要な基礎学力と学習意欲を有している。
- (2) 物事を論理的に考察することができる。
- (3) 社会現象を多面的に見る態度を有している。
- (4) 自分の考えを的確に表現できる。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

社会学部では、入学志願者に、高等学校等での教科学習に取り組むとともに、みずから社会現象への幅広い関心を養うことを求めます。高校で学ぶことは、大学での学習・研究の基礎となるものです。国語、英語、社会などの文系科目だけではなく、数学や理科も含め、幅広い知識と学力を身につけましょう。社会現象に幅広い関心を持つために、自分の身の回りで起こる事柄やテレビ、新聞、インターネットなどの情報に目を向け、それを考察するために、関連する本を読んだり、データや資料を調べたりしてみましょう。

〈経営学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

経営学部では、「自由と進歩」「進取の気象」の精神の下、経営学の対象である企業を取り巻く環境変化を的確に捉え、社会の諸問題について自分の考察を柔軟かつ堅実に進める分析能力を修得することを教育方針としています。そして、各学科については以下のような教育目標を掲げています。

1. 経営学科では、経営の基本能力を修得し、様々な環境で即戦力として活躍できる適応力とともに、部下管理と組織運営能力をもった人材の育成を目標とする。
2. 経営戦略学科では、グローバルな視点から各種の事業分野でビジネスの創業と再開発を自らリードする戦略発想と用具を兼ね備えた人材の育成を目標とする。
3. 市場経営学科では、経済成長を支える基幹市場・新市場ごとに、その顧客ニーズを研究、商品を開発企画し、営業・組織の仕組みを構想・運営できる、個別市場のスペシャリストの育成を目標とする。
4. 全学科に共通して、幅広い分野の中から自分なりの問題を見つけ、そうした課題に対して自分の持っている知識を活用しながら独創性と確実性を備えたアプローチを行ない、国際的な視点から見ても十分に説得力のある考察を構築することができる人材の育成を目指す。

※あわせて学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)もご覧ください。(本学 web サイト参照)

【学部が求める人材】

経営学部では、経営学に関心を持ち、学部教育を受ける上で必要となる基礎知識や学習意欲を十分に備えていることを必須の条件とし、学生を求めています。より具体的には、入学後の教育を理解するために必要となる英語、国語、社会、数学の科目を中心として高い学力を持ち、経営学のみならず経済、法律、歴史、言語、情報処理といった知識を身につけ、論理的思考能力を修得しようという向学心のある人材です。また、高校在学中に勉学やスポーツなどの分野で特筆すべき成果を収めた学生も、学習意欲や自発性・創造性に優れた人材として受け入れています。さらに、多様性の観点に立ち、国際的な視点から活発に議論ができる環境を作り出すために、国際性を身につけた学生として帰国生・外国人留学生も受け入れています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

高校でのそれぞれの科目は、大学での学びの基礎となるものです。国語や社会などの文系科目はもとより、数学などの理系科目をも含め、しっかり基礎学力を身につけましょう。経営学の分野は広範なので、理論を学び、知識も備えるために、高校で培った学力がベースとして必要となります。そして入学後は、経営学に関する専門知識や基本的な語学力、数理的な分析能力、情報処理能力の修得のみならず、深い人間理解力を身につけるとともに、コミュニケーション能力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など総合的な能力に磨きをかけることになります。また、将来どのような仕事に就くにしても、グローバル人材として英語力が必須になるので、英語力の向上を目指しましょう。

〈国際文化学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

国際文化学部では学部教育の到達目標として、外国語・情報学の学習や異文化理解の研鑽を通じて、自国の文化をはじめとするあらゆる文化を相対化し、グローバルな視野で物事を考えたいという情報の受信・発信が可能な、国際社会人の養成を掲げています。国際文化学部では〈国際社会人〉の理想像を、「博愛と平等の精神に基づく行動により、国家、民族、宗教や時代の壁を超えて敬愛される人物」と定めています。

【学部が求める人材】

入学後の学習や SA (Study Abroad) プログラム等により、国際社会人となりうる資質や意欲のある受験生を幅広く募り、学部の教育目標、学位授与方針に照らして、次のような学生を受け入れます。

一般入試 (A 方式、T 日程及び大学入試センター試験利用入試) : 外国語の運用能力をはじめ、総合的な学力を身につけている志願者。いずれの経路においても、語学力を中心に、知識、技能、思考力、表現力を判定して、様々な地域から国際社会人を目指す多様な学生を受け入れます。特別入試 (SA 自己推薦、分野優秀者、指定校推薦、付属校推薦、スポーツに優れた者の特別推薦) : 異文化への理解・交流や情報学に関心が高い志願者。書類審査、面接等を行います。

外国人留学生入試: 日本語能力が高く、日本の文化や社会に関心をもつ留学生。書類審査 (調査書、自己推薦書等) と面接により、知識・技能、

思考力・判断力、意欲・態度を判定します。日本への留学自体がSA であると考えられるので、東京とは異なる地域を研修地とする SJ (Study Japan) プログラムへの参加が必須となります。これは日本を多面的・重層的に眺める目を養うことを目的とします。

身体に障がいを持つ入学志願者に対しても、積極的に対応しています(ただし、SA 先大学での受け入れ状況によっては、希望の SA 先に留学できない場合もあります)。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

外国語や異文化に興味を持ち、物事を複数の視点で多面的に考察していくような学びを目指してください。大学での豊かな学びや多様な可能性を確かなものにするためにも、常に自己を高める努力を怠らず、知的好奇心や共感力を育み、幅広い基礎学習を積み重ねておくことが必要です。

〈人間環境学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

人間環境学部は、「サステナビリティ」(持続可能性)を基本コンセプトとして、「人間」と「環境」の調和共存が達成された社会(持続可能な社会)を構想する文系の総合政策学部として1999年に設立されました。社会科学を基盤に、自然科学・人文科学を融合させた学際的なカリキュラムにより、幅広い知見と対応能力を養い、21世紀の最重要課題である「持続可能な社会の構築」に貢献する文系の人材を輩出することを目的としています。したがって人間環境学部は、「人間と環境のかかわり」を手がかりとして人類の軌跡や現代社会の諸問題について幅広く思考をめぐらしながら文明を問い直し、未来を展望できる力と感性を養う「環境教養」と、持続可能性にかかわる複雑な諸課題に対して、様々な立場の社会人として適切な解決手段を構想し実行できる「政策能力」を、人材育成の基本的な理念として位置づけ、教育プログラムを展開します。

このような理念に基づく人材育成のために、人間環境学部は「社会との交流・連携」を重視します。「環境教養」と「政策能力」を習得するためには、第一線で活躍する実践者から学び、フィールドに出向いて現実と向き合い、多くの人々の声に耳を傾け、あるいは共に取り組む工夫が教育プログラムに不可欠であるからです。同時に、このような「外とつながる」教育プログラムは、学生に社会的責任への意識を促し、社会への貢献を通じて「開かれた」学部を志向するという意味を持ちます。このような目的から、人間環境学部は様々な局面で「社会との交流・連携」の取り組みを推進し、「FSR」(学部の社会的責任)を果たす道筋について模索を続けていきます。

人間環境学部の教育プログラムは、持続可能な社会の構築について、地球規模から地域社会まで様々な次元を視野に入れていきます。つまり、持続可能性をグローバルな思考とローカルな思考を共に育むことができる教育空間を提供し、学生が主体的に学び、自らの進路を選び、切り開いていくプロセスを支援するためのカリキュラム体系を構築しています。

以上の理念の実現を図ることにより、法政大学の3つのミッションの1つ「激動する21世紀の多様な課題を解決し、『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」役割を、人間環境学部は中心的に担っていくものです。

人間環境学部の教育は、人間と環境の調和・共存をめざし、持続可能な社会の構築に貢献するため、以下を教育目標とします。

1. 「環境」を手がかりとして、人類の軌跡、人間のありかた、現代社会の諸問題などについて幅広い知識・思考能力・感性を育み、さらに社会経済システム・サイエンス・ライフスタイル・文化など、文明のあり方について、持続可能性の観点から具体的に問い直し、未来を展望できる「環境教養」の豊かな人材を育成すること。
2. 学際的な教育プログラムを通して、グローバルな思考とローカルな思考を併せ持ち、現代の多様な現場で生起している、「環境」にかかわる広義の諸課題に対応する「政策」を、国際機関・国・自治体・企業・NPO・NGO・市民など国内外の様々な活動主体に即して構想し実行できる能力をもつ人材を育成すること。
3. 多様な「社会との交流・連携」の機会を通して、座学による学習と、フィールドにおける実感的・体験的学習をバランスよく組み合わせ、学生の社会的責任の意識を涵養するとともに、分野や国内外の垣根をこえた「協働」のネットワークの形成に必要なコミュニケーション能力をもつ人材を育成すること。

【学部が求める人材】

人間環境学部は、人間と環境の調和共存について学ぶ文系の総合政策学部という基本的な性格に適性がある学生、すなわち、一定以上の基礎学力を有し、かつ、持続可能な社会の実現に向けて文系から現代の最先端の諸課題に取り組むことに対して高い意欲を持つ学生を受け入れます。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

学生選抜の具体的な着眼点と選抜方法については、一般入試と特別入試に大分される多様な受験機会と、以下のように機能分担を図っていきます。

一般入試 A 方式・T 日程・英語外部試験利用入試・大学入試センター試験利用試験は、人間環境学部で学ぶための基礎学力を重視した選抜を行いません。特に A 方式は、人間環境学部の文系を中心とした教育プログラムに関する基礎学力を修得しているかどうかを選抜の着眼点とします。それに対して T 日程・英語外部試験利用入試・大学入試センター試験利用試験は、環境に関するサイエンスやテクノロジーについて関心がある学生にとっても、それらの領域の基礎となる学力を修得していれば選抜に対応できるように機能分担しています。なお、英語外部試験利用入試では、グローバル化の志向性をもった学生を求めます。

特別入試のうち、指定校推薦・付属校推薦は、高等学校の平常評価で一定の学力の修得が証明されていることを前提として、人間環境学部で学ぶ意欲の程度を選抜の着眼点とします。それに対して自己推薦入試は、高等学校で修得すべきリテラシー能力を考查することを前提として、それまでの人生経験や社会活動の経験などに基づいて説明される人間環境学部で学ぶ意欲の程度、コミュニケーション能力を選抜の着眼点とします。

社会人特別入試は、社会人としてのリテラシー能力を考查することを前提として、これまでのライフキャリアと今後のデザインに基づいて説明される人間環境学部で学ぶ意欲の程度、コミュニケーション能力を选拔の着眼点とします。

その他、転編入・スポーツ推薦・留学生などの特別入試も、一定の基礎学力の証明またはその考查を前提として、人間環境学部で学ぶ意欲の程度を选拔の着眼点とします。

〈現代福祉学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

現代福祉学部の教育理念は「Well-being = 健康で幸福な暮らしと社会の実現」です。

現代福祉学部は福祉を広くとらえ、Well-being に欠かせないコミュニティの再生や創造にかかわる「社会福祉」や「地域づくり」と、こころの健康を支える「臨床心理」を総合的に学ぶことで、幅広い福祉社会を実現する人材を養成することを教育の方針として掲げています。

現代福祉学部は、福祉コミュニティ学科と臨床心理学科の2学科からなります。

福祉コミュニティ学科では、人びとのこころの問題も視野に入れた豊かな福祉コミュニティの創造に貢献できる専門の人材を養成します。地域社会で起きている諸問題に主体的に取り組む人材を社会に供給します。

臨床心理学科では、地域の暮らしや制度、人びとの生活や福祉サービスを視野に入れつつ、こころの問題にかかわる専門の人材を養成します。個人・家族・コミュニティにかかわる心理学を体系的に学んだ臨床心理のスペシャリストを社会に供給します。

【学部が求める人材】

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

- 1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
- 2) 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
- 3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
- 4) 少子高齢化、子どもの貧困問題、地域間格差拡大、心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
- 5) 積極的に他者と関わり、実践を通した学びを深めようとする態度を有している。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

「すべての国民が健康で幸福を感じられる暮らしとコミュニティを実現するにはどうしたらよいか」現代の社会が抱えている様々な課題を解決するのはみなさんです。書物や新聞などに目を通し、問題意識を持って日々の生活を送り、学習に取り組んでいただきたい。そのような問題意識を持って入学されると、学習効果が高まり、ご自身の関心領域を見つけやすく、適性にあった職業選択に繋がるのが期待できます。

〈キャリアデザイン学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

キャリアデザイン学部は、人文・社会科学の両領域にわたる研究を通じて、人間発達や人材育成・開発、個人のライフキャリアの問題に学際的にアプローチすることをめざしています。主要な学問的基礎には、(1) 家庭・学校・地域・生涯学習社会における学びに焦点をあてる「教育学」、(2) 企業組織やビジネス領域におけるキャリア形成に焦点を当てる「経営学」、(3) コミュニティや社会におけるライフキャリアに焦点を当てる「文化・コミュニティ論」を置いています。

こうした諸研究の成果に基づき、キャリアデザイン学部が教育の目的とするのは、(1) 自己の学び方、働き方、生き方を自らデザインすることのできる自律的人材の養成であり、同時に、(2) 他者の学び方、働き方、生き方のデザインや再デザインに関与しつつ、その支援を幅広く行うことのできる専門的人材の育成です。

キャリアデザイン学部の教育は、入門期には、幅広く基本的事項を学習することが必要であるが、その後は学生一人ひとりが自らの「専門性」を創っていくことが求められます。先にも記した(1) 教育学、(2) 経営学、(3) 文化・コミュニティ論、およびそれらの複合領域を基盤としつつ、それぞれのアプローチ視点からの、国際的な視野も有したキャリアデザイン理解を深めることが求められます。

キャリアデザイン学部の教育目標は、こうした意味で、キャリアデザインについて、各自が持つ専門的な視点からの理解と考察を深めることのできる人材の育成です。

【学部が求める人材】

キャリアデザイン学部では、すべての入試経路にわたって、学部の基本的な理念・目的を理解し、学習への意欲を持ち、大学で学ぶために必要な基礎学力を有する学生を受け入れます。

また、上記の条件を満たしていることを前提としたうえで、多様な学習履歴を持つ学生、社会活動や文化活動等の実績を有する学生を幅広く受け入れることも方針としており、その具体化のために、一般入試(T日程、A方式、大学入試センター試験利用入試)以外にも、社会人入試、指定校推薦、付属校推薦、留学生入試、スポーツ推薦入試、自己推薦入試、転編入試を実施しています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

いずれの入試経路からの入学者にも、高校までに履修する科目について、入学時に十分な基礎的素養を身につけていることを求めます。

〈グローバル教養学部(GIS)〉

【学部の教育方針と教育目標】

グローバル学際研究を教育理念とし、国際的に通用する知性と教養そして高度の英語力を身につけ、社会の発展に貢献することができる有為な人材の育成を目指しています。

グローバル学際研究とは、特定の国や地域や文化の発想・理論を超え、また従来の学問の枠組みにとどまらずに、領域横断的視点から対象に取り組む姿勢を表しています。

グローバル教養学部（GIS）の教育は、1年次の授業からは、講義、ディスカッション、プレゼンテーション、試験、レポートなどすべて英語で行います。加えて、少人数教育による丁寧な指導が大きな特徴です。文学からビジネスまで多様な分野（芸術と文学、言語学と言語習得、文化と社会、国際関係とガバナンス、ビジネスと経済）から幅広く履修することから始め、3・4年次科目やゼミにおいて各専門分野を系統的に学ぶことができます。

4年間を通して、論理的・批判的思考能力、知的枠組みと自由な発想、多文化社会への理解、語学運用能力、表現力とコミュニケーション能力などを養い深めます。

【学部が求める人材】

法政大学は進取の気象に富み自立的な人材の育成を目指しています。グローバル教養学部（GIS）はこの理念に基づき次のような学生を求めています。勉学への意欲と知的好奇心を持って物事を深く考え、現代的な諸問題に関して先端的な議論を共有できる人、国際的に開かれたキャリアを希望する人、人間性豊かなコミュニケーション能力と寛容な精神を持ち、多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築ける人、フェアネスと健全な倫理感を持つ人、そしてグローバル教養学部（GIS）での大学生活をとらえて、そのような人間になりたいという志を持つ学生を求めています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

勤勉に学習に取り組む習慣を身につけるようにしてください。グローバル教養学部（GIS）における学業に不可欠なものは英語力です。海外経験は必須ではありません。文法知識や語彙を確実なものにして、作文、読解、オーラル・コミュニケーションの力を高めてください。さらに、基礎学力として国語力（特に読解力と作文）と地理歴史公民の知識や理数的思考力は、すべての学問の土台となるものであり必要なものです。

〈スポーツ健康学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

スポーツの持つ意味は、時代とともに変化してきました。その変化が加速したきっかけは2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まってからです。アスリートとしてだけでなく国内外でスポーツを支え、社会に貢献できる人材が求められるようになりました。加えて、少子高齢化は留まるところを知りません。子供たちにとっては、スポーツに取り組む姿勢の二極化という問題があります。一生懸命スポーツに取り組む子供たちにとってはスポーツによっておこる外傷や障がいやを予防する取り組みがより積極的に行われる必要があります。さらに多くの子供たちの運動離れが一層深刻になっている状況があります。長寿国ゆえの医療費・介護費の増大に加えて、介護に関わる部分では人的エネルギーも膨大です。スポーツは、心身の健康上の求めに応じてだけでなく、地域社会の再構築、経済の再生、外交の修復にさえ大きな力を発揮することが知られています。この学部には室内での議論からキャンパス内外の研究活動まで、多くの講義や演習、実技・実習が用意されています。健康維持のための基礎的な知識の獲得もスポーツの能力と魅力をさらに高めるための実践活動も、常にフィードバックをかけながら地道に進められていきます。この現状を乗り越えるため、各種スポーツとそれらを取り込んだ学問領域を相互に学びながら、社会に還元する。それが、スポーツ健康学部の目指すところです。

【学部が求める人材】

人と健康に関する諸問題を発見、解決する能力を磨く。それを隠れた武器にして、国際舞台でもたくましく雄飛できる心身ともに健全かつ頑強な若き人材を育成する。そんな力を発揮する人間を輩出するためには、逆境をくぐり抜ける復元力、問題解決の糸口を探る独創性、人間の尊厳を大切にす均整のとれた人生観が必要です。この門を叩くには、①就学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している（知識・理解・実技能力）。②物事を多面的かつ理論的に考察が出来る（思考・判断）。③自分の考えを的確に判断し、伝えることが出来る（コミュニケーション）。④スポーツ、人間、文化にかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある（関心・意欲）。⑤積極的に他者とかわり、対話を通じて相互理解に努めようとする態度を有している（態度）。以上、学力はもとより、喜んで行動し、貪欲な知識欲・探究心を身につけていることが前提となります。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

スポーツ健康学を基にした知識に習熟している必要はありません。ベースは入学後の就学に必要な基礎学力や義務教育以降培ってきたはずの勉学の習慣を身につけている事が大切です。創造性を刺激し合い互いに切磋琢磨するためには、異なる環境をくぐり抜けてきた学生が一堂に会することが必要だと考えています。そのために以下のような入学試験制度を設けています。

1. 一般入試（大学入試センター試験利用入試、T 日程入試、A 方式入試の3つを設ける）
2. 付属校推薦入試（本学付属校の大学推薦有資格者を選抜する）
3. スポーツ推薦入試（大学基準によるスポーツの技能に優れた者を選抜する）
4. 自己推薦入試（理数系科目に優れた者およびスポーツ実践能力に秀でた者を選抜する）
5. トップアスリート入試（スポーツの技能に特に優れた者を選抜する）
6. 外国人留学生入試（国際性と日本語能力をベースにして選抜する）

〈情報科学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

現代社会は、ネットワークでつながったコンピュータやスマートフォンからなる高度な情報システム無しには動かないといっても過言ではありません。人やモノから成る複雑な社会の仕組みやそこで起きる様々なできごとが情報システム上に表現され、コンピュータで処理された結果が実社会を動かしていくという大きな情報の流れが形作られています。情報科学はこれらの情報化社会を支える重要な学問分野であり、情報科学部ではこの情報科学を礎とした高度な情報技術の教育・研究により、これからの社会の様々な分野で活躍する人材の育成を目指しています。

具体的には、実社会の様々な複雑なことがらに共通する重要な本質を抜き出す抽象化能力、問題を筋道立てて考え正しく処理する論理的思考能力、様々な仕事をコンピュータ上に実現するプログラミング能力を養うことを目標としています。また、身につけたこれらの能力を活かし、多くの人とチームワークで問題を解決していくためのコミュニケーション能力の向上も重視しています。

これらの教育目標に基づき、2つの学科を横断する3つのコース、卒業研究に取り組む多様な専門性をもった研究室によって、段階的に各々の興味と知識の専門性を高めていくという教育方針をとっています。

【学部が求める人材】

情報科学部では、多様な学生が場を同じくして学び成長することで教育目標に挙げた情報社会に必要な力を身につけていくことが重要かつ効果的であると考え、学力を重視した入学経路、主体性を重視した入学経路、国際性を重視した入学経路と幅広く学生の受け入れ経路を用意しています。コンピュータ・ネットワーク・メディア処理といった情報社会の核となる技術に興味があり、それらを使って新しいものを創造し、社会の役に立ちたいと考えている学生が入学することを期待しています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

情報科学を礎とした高度な情報技術者を目指すといっても、入学前に情報の基礎技術に習熟している必要はありません。プログラミング等の情報技術に関しては、入学後の学習で十分な力を付けることができます。高等学校においては、大学入学後の情報科学分野の学習の基礎となる力を主体的に養ってください。

問題を抽象化して筋道を立てて考えるためには数学の基礎力が重要になります。ベクトルや空間図形・確率・統計といった分野は情報科学の様々な分野に関係し、メディア処理においては物理的な現象やそれを表す微積分が使われます。これに加えて、様々な問題を把握して表現するためには国語の力を鍛えておくことにも意味があります。いろいろなジャンルの読書で幅広い教養と読解力を付けると良いでしょう。また情報技術の多くは英語圏由来のもので、英語の基礎力を高めておくことも必要になります。

〈デザイン工学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

デザイン工学部は、工学に基礎・基盤とし、他の学問分野との知識の融合により多面的な観点から物事を検討し、正しい価値を創造しデザインすることのできる人材の育成を教育目標としています。デザイン工学部には、より人間的側面を重視して新しいモノやコト、システムを創造する「総合デザイン」という共通した統合理念のもと、建築学科、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科の3学科が設置されています。

総合デザイン能力を効率的に身につけるため、以下の教育方針に基づいてカリキュラムを構成しています。

1. 多様な内容、文理融合の教養教育の充実
2. 基礎的科目と専門教育の連携とその体系的な編成・配置
3. 実務と結びついた演習・実習教育、スタジオ教育の充実
4. 先端技術への対応
5. 少人数教育によるきめ細かな教育の充実
6. 社会貢献と社会への情報公開・説明責任の遂行

【学部が求める人材】

デザイン工学部では、工学的な基礎学力に加えて、自然や環境、歴史や文化とのかかわり合いを大切に考え、豊かな感性を備えた、倫理観、積極性のある学生を求めています。そのため、A方式入試やT日程入試、大学入試センター試験利用入試という学力による入学試験の他に、指定校推薦入試、付属校推薦入試、外国人留学生入試、帰国生入試、スポーツ推薦入試など様々な入学経路を設けています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

受験科目だけでなく、学問に対する幅広い関心を持ち、何事にも積極性、主体性をもって取り組んでください。さらに、国際的視野をもつ素地を可能なかぎり習得しておいてください。

〈理工学部〉

【学部の教育方針と教育目標】

理工学部の教育方針は、高度な「ものづくり」に携わることができる人材、および持続可能な社会の発展に貢献できる、創造性豊かで幅広い教養と国際性を身につけた自律性のある技術者を育成することです。この方針に基づいて、時代の最先端技術及びその基礎を体系的に教育し、専門分野における問題発見・解決能力を養うことを目標としています。同時に、学びの多様化に対応した学部横断的な教育や、地球規模で活躍できる国際性・社会性豊かな人材育成のための語学教育や教養教育も実施しています。

【学部が求める人材】

「ものづくり」の意味は、社会的必要性から始まり、その分析や実現するための科学技術の研究や開発、ならびに成果の評価という様々な段階のすべての事柄を含むものであり、これには組織やシステム構築等の「しくみづくり」も含まれています。これからの独創的な「ものづくり」には、「工学」としての科学技術の習熟はもちろんのこと、真理の探究を目指す「理学」の深い素養も必要不可欠です。これらを習得することができるような多様な資質を持った科学的探究心の旺盛な人材を求めています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

高等学校等で現在履修している科目は、大学入学後の語学をはじめとする文系教養科目、理系基礎・専門科目等の高校から大学への接続の部分においてどれも重要なものです。当然ながら、高等学校等で履修する理系科目及び英語については、入学時に十分な学力を身につけておくことが重要で、さらに他科目についても「積極的かつ自主的な学び」を通して、幅広い基礎的素養の習得に心掛けてください。

〈生命科学部〉**【学部の教育方針と教育目標】**

生命科学部では、生命・環境・物質（資源・エネルギー）・食料問題など、さまざまな問題を解決するための学際的学問を習得し、柔軟で総合的視野を備えた実践的研究・技術者の育成を目標としています。（HP掲載の「理念・目的」も参照してください。）各学科で実践される教育目標は次の通りです。

生命機能学科では、1.生命科学を分子から生命システムまで統括的に把握でき、実験を仮説・検証の過程を経て遂行でき、2.科学英語に習熟し、豊かなコミュニケーション能力を備え、国際的に活躍でき、3.幅広い科学の見識と論理的能力を備えた、人材を育成します。

環境応用化学科では、21世紀型先端化学を基礎として、産業界で活躍できる高度な科学技術・研究者養成を目標とします。未知の問題を解決できるような柔軟性も備え、かつ、専門的知見は着実に身に付け、国際性も身に付けた研究・技術者の育成のための教育システム構築を志向します。

応用植物科学科では、植物の健康は、人類が生存し続けるための持続可能な循環型社会実現の鍵であるとの認識のもと、植物病に対する的確な診断・治療・予防が行えるような実践的人材である植物の医師の養成を目指します。植物の医師は、食料、環境問題とその背景となっている経済・社会的総合知識や、植物と微生物や昆虫などの相互作用の生物学、さらに、世界規模の植物病の蔓延にも対応できるような国際感覚も志向します。

【学部が求める人材】

生命科学は、学際的、かつグローバルな展開を遂げつつあり、とどまるどころを知りません。このため言語能力のほか、社会や文化についても素養をもつ必要があります。また、生命科学の専門的知識を幅広く習得し、理解することは「持続可能な地球社会の構築」に不可欠です。このために、広範な背景の学生を受け入れることが必要と考え、さまざまな選考経路を準備して、広く門戸を開いています。（具体的には、入試要項を参照してください。）とりわけ、学問を貪欲に吸収し、科学技術の進歩に社会に生かそうとする学生を積極的に受け入れることを方針としています。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取組み】

入学後に問題発見と解決を主体的に行えるよう成長でき、独創的な研究を推進でき、旺盛な知的的好奇心と高い倫理観をもって食料、資源、環境、バイオ技術問題などに取り組める意欲的な学生を期待します。そのためには、高等学校で学ぶ知識全般はどれも重要です。是非身につけてください。とりわけ、コミュニケーションツールとしての日本語と英語、専門分野の基礎としての数学や理科（物理、化学、生物、地学）の基礎知識や実験技術、広い教養（社会、国語、幅広い読書経験など）を身につけていることが求められます。